

天溪 2018 年「ピレネー国境横断ハイキング 10 日間」

「ピレネー国境横断ハイキング 10 日間」を 8 月 23 日～9 月 1 日に行いました。

バルセロナを出発し、世界遺産の城塞都市カルカソヌ、ルルドの泉（聖母マリアの奇跡）、温泉保養とスキー場のコトレ、壮大な絶壁のガバルニー圏谷、伝説ローランの裂け目を通りフランス・スペイン国境越え、グランドキャニオン並みのオルデッサ圏谷、中世の面影を残すトルラ、奇岩モンセラート修道院（黒いマリア像）などを通り、再びサグラダファミリアやピカソ美術館のバルセロナに戻ります。

※国境越えにはフランス側・サラデ、スペイン側・ゴリッツの山小屋2ヶ所に泊まっていました。所が昨年、サラデ小屋が増改築でクローズし、その為にこのツアーも 1 年延期。ところが今年も完成せず工事継続中で、2 年ツアーを延期する訳にも行かず、少しハードですがガバルニーからゴリッツ小屋まで一気に進む 1 泊 2 日の国境越になりました。



(大雪田とローランの裂け目 8/28 日)

○カルカソヌ・ルルド・コトレ

バルセロナから車でフランスの世界遺産ではモンサンミッシェルにつぎ年間来訪者が多いと言われる城塞都市カルカソヌへ。航空会社のロストバゲージ、スペイン・フランス国境の交通渋滞、カルカソヌ地域祭の交通規制などからホテル到着が大幅に遅れ午後 11 時 30 分。ホテルの好意でこの時間も夕食 OK、名物のダック料理でしたが流石に長旅の疲れで食欲は今一歩。翌朝、カルカソヌ城内を見学し、聖母マリアの出現で有名なルルドの泉に寄り、ピレネー・フランス側の温泉保養地で、今は登山・スキー場で賑わうコトレに向かいました。この地方はボルドーに近くワインの産地でもあります。



○ビニユマル山麓ハイキング

シャトルバスと徒歩でスペイン橋を渡りスキーヒルを登ってゴープ湖へ。晩夏の湖畔を楽しんだ後、フレンチ・ピレネー最高峰のビニユマル山 (3298m) 北壁が目前に迫るオーレット小屋を目指しました。外見は小さく見える小屋ですが、内部は中々広く施設も整い結構楽しめました。ただ、大きな団体の集会があり、その煩さに閉口、お互い山小屋はマナーを守りましょう。余談ですが日本の山小屋は早寝・早立ち、ヨーロッパの山小屋は一般的に遅寝・遅立ちです。



(晩夏のコープ湖 8/25 日)



(早朝のピニユマル山 8/25 日)

○ガバルニー圏谷ハイキング

この圏谷は標高差 1700m、円周 14Km、周りをマルボレ山(3248m)、その背後(スペイン側)のペルデュ山(3352m)など 3000m級の山々に囲まれ、あたかも巨大な自然の円形劇場です。今回は絶壁正面にあり、ヨーロッパ随一の落差を誇る大滝の滝壺脇、正に滝の水しぶきが掛かるところまで往復して来ました。滝に行く途中にこの時期では珍しい雪渓があり、聞くところでは春先残雪が凄かったとの事。



(ガウアルニー圏谷・滝直下 8/27 日)



○フランス・スペイン国境越え

ガバルニーのホテルを早朝 7:00 に出発し、車でサンチャゴ・デ・コンポステーラへ向かう巡礼街道が通るタンテ峠近くの駐車場まで登りハイキングをスタート。大岩が転がる溪流の脇を詰めてサラデ小屋の改築現場へ。どう見ても進捗度は一昨年と殆ど変わらずでしたが、来年の完成期待です。ローランの裂け目直下の大雪山を過ぎ、ガラ場をよじ登ると丁度正午に裂け目のコルに到着。反対側のスペイン・オルデッサ圏谷はフランス側と異なりなだらかな丘陵地帯が延々と続きます。午後 4 時半、ゴリツ小屋到着。早速、1 リットル 10 ユーロのワイン(ビールと同価格)で祝杯、夕食時に秋の訪れを告げるかの様な夕立がありました。翌朝は 7:30 出発、巡礼街道のたたずまいを残すトルラの村へ向け、オルデッサ圏谷を下りました。



(ローランの裂け目・スペイン側 8/28 日)





(サラデ小屋 8/28日)



(羊 8/26日)

○史跡巡り

トルラから独特の岩容と黒いマリア像で有名なモンセラート修道院に寄り、少年合唱団のコーラスを聞いてからバルセロナへ。バルセロナではサグラダファミリアやピカソ美術館の芸術めぐりと市場でお買い物。皆様、思い思いにバルセロナの一時を楽しんでいただきました。



9月に入り天溪ツアーも今年は残りわずかになりました。

次は「9月13日～21日 紅葉カナディアンロッキーとオーロラ9日間」そしてヒマラヤのカラパタール 5550mまで登る「11月5日～22日 エベレスト街道 カラパタール 18日間」と続きます。

記 天溪 赤沼